

対象者：鶴崎子ども食堂（鶴崎ことぶき第3部会・子ども食堂の会） 会長 安部泰史氏

日時：2023年6月23日（金）16:30～00:00 場所：鶴崎子ども食堂

文責：大分大学福祉健康科学部 3年生 後藤玲七、北澤春奈

■平均年齢72歳、高齢者が地域貢献する多世代交流の場

鶴崎子ども食堂は、目の前に大分鶴崎高校が見え、近くに子ども達が通う鶴崎小学校があり、参加する小学生だけでなく、ボランティアの高校生、運営スタッフの地域の高齢者が集まる、多世代交流の場となっています。会場は昔ながらの畳の匂いがする一軒家で、毎月第2、第4金曜日の17時から20時まで運営しています。明るいスタッフの方々に向かい入れられる子ども達の姿。すごく暖かい雰囲気、安心感が抜群でした。地域の老人クラブから、平均年齢「72歳」の元気な男衆が運営の中心メンバーとなり、多様な世代が共に遊んだり、食事をしたりすることのできる、温かく、和気あいあいとした居場所でした。子ども食堂に高校生がボランティアとして来てくれることは珍しいようで、立地条件が良いからこそ、お姉さん・お兄さん的な存在の高校生とも関わる点ができるのが鶴崎子ども食堂の特徴だと分かりました。



写真左：小学生の子ども達の学習を高校生やスタッフがサポートする様子。写真右：小学生と高校生と一緒に遊ぶ様子。

■乙津川水辺の楽校(がっこう)を契機とした地域の子どもへのまなざし

鶴崎子ども食堂が誕生した背景には、乙津川の水辺整備が完了し、「水辺の楽校」として供用を開始した中で2014年から始まったカヌー体験教室があります。毎月第4日曜日の9時から12時まで乙津川で開催し、二人乗りカヌーの体験と乙津川の清掃を行い、お昼の時間になると解散します。しかし、参加者の中に、お昼の時間になっても帰らない子どもたちがいて、どうしたのかと聴くと、帰っても昼食がないとのこと。安部さんは、そのような子どもたちに、何ができることをしたいという熱い思いから、2016年に鶴崎子ども食堂をスタートさせました。当初は、毎月第1、第3土曜日の11時から13時までの活動でした。しかし、子ども食堂に来る子どもたちや保護者らと相談して、現在の金曜夕方から夜の開催に変化していきました。それは、17時まで運営している児童育成クラブに所属している子どもたちが大半を占めており、保護者の「共働き、母子家庭のため児童育成クラブが終わった後の子どもたちの面倒をみてくれないか」という要望を取り入れています。金曜日に行うのは、「金曜日は会社のお付き合いが入りやすい。保護者の方にそちらを優先してもらいたい。」からだそうです。

また、安部さんが先生となって、子どもたちに「勝海舟と坂本龍馬がどのようにして鶴崎に来たのか、何をしていたのか」歴史のお話をされていました。地域の歴史を次の世代へ継承できる貴重な時間だと感じました。このような居場所が、全国に広まっていけば良いなと思いました。

■一人ひとりの存在を大切にして、子どもがありのままでいられる居場所

安部さんは「たくさん子ども達を見る中で、色々な特性の子がいる」「大人が理想の子ども像と比べて、子どもたちを見ている現状もある」とお聞きしました。だから、安部さんはその子どもの特性に合わせて、出来る

ように教えていく、出来ないことを責めず、良いところを見て関わり、一人ひとりを大切にすることを心掛けています。大人が子どもに対して、理想の姿を求めすぎると、子ども達本来の良さが見え無くなってしまい、子ども達も大人の目を気にして、プレッシャーを感じて生きていくことになるでしょう。しかし、どんな子どもも受け止めて、ストレングスを褒めて伸ばしてくれることは、子どもたちの自尊心が守られ、自信にも繋がるのではないかと思います。

スタッフの皆さんは、子ども達を本当の孫のように見守りつつ、歴史・文化の伝承や食事のマナーなどを伝えていました。子どもたちの中には、小学校1年生の頃から6年間継続して通っている子がいます。関係性ができていて、スタッフの皆さんにも遠慮なくズバズバ言い、良い意味で素をさらけ出せている感じがしました。部屋の中で宿題を終えた子ども達は、一息つく間もなく外に出て、夕食の時間まで、高校生と一緒に遊んでおり、そこには楽しそうな笑い声と可愛い笑顔が溢れていました。私は、この日、人生で初めて子ども食堂に伺ったのですが、みんなと一緒にご飯を食べたり、遊んだりできて、安心して冗談が言える、ありのままの自分を受け入れてくれる居場所があることは、子ども達の安全・安心に繋がると感じました。

■誰でも気軽に遊びに来てほしい

子ども食堂と聞くと、「子どもの貧困対策」というイメージを持たれる方が多いと思います。鶴崎子ども食堂も当初は、貧困対策を行っている地域の人から思われていました。ある日、玄関前にいる小学生が中に入りたそうにしているけれど入ってこないことがあった。話を聞いてみると、母親から行ってほしくないと言われたと。ここを利用する子どもは貧困の家庭というイメージが世の中にはある。そう思われたくない母親が行かせるのをためらっていた。「カレーライスを食べに行ってはダメ」「あのおじちゃんたちと関わってはダメ」、、、それではいけないと思った安部さんは、ここをカレーライスが好きな子どもが集まる場、貧困対策として行うのではないということ浸透させていきました。鶴崎子ども食堂は、「カレーライス食べに来ない?」「友達と一緒に遊びにおいで!」という「誰でも気軽に遊びに来てほしい」というスタンスで運営しています。安部さんも、「貧困対策でやっているわけではないから、いろんな人が軽い気持ちで遊びに来てほしい」と仰っていました。その運営スタンスが地域に広まり、小学校のグラウンドで20名以上の子どもたちが集まり、みんなでカレーライスを食べたこともあったそうです。このお話を聴いて、「子ども食堂=貧困対策」という根強いイメージを払拭することが、これからの地域福祉の課題であると感じました。

■絶品のカレーライスは子ども達の笑顔の源

鶴崎子ども食堂の名物は、スタッフの男衆が作る絶品のカレーライスです。子どもたちは、「男衆の作るカレーライスはとってもおいしい」「ここのカレーライスは絶品だよ!」と言います。理由は様々ですが、一番の理由は、みんな好きで食べられるものだから。安部さんは「僕たちの時代は食べるものが少なかったから、食べられる物は何でも食べていた。でも現代は、アレルギーや給食などで食べられない物がある子どもが多い。」とお話されていました。だからこそ、子ども達が食事を楽しめるように、栄養もしっかり摂れて、皆が食べられる「カレーライス」を作り続けられているのだそうです。このお話を聴いて、安部さんの子どもたちに対する優しい思いやりを感じることができました。

鶴崎子ども食堂は、最初は安部さんのポケットマネーでの活動が行われていたようですが、現在はフォーマルサポートとして、市の長寿福祉課が助成金を使用し、食材を買ったり、スタッフの人件費を出しているそうです。インフォーマルサポートとして、企業やお店などから物品寄付があります。例えば、みどり牛乳からは牛乳パックが、地域の農家やフードバンクから提供していただいたお米や野菜、カレールーを使い、鶏肉は近所の精肉店から無料で分けてもらい、不足品は買い足しながら、子どもたちに無料のカレーライスを提供しているそうです。ボランティアとして来る高校生達もインフォーマルなサポーターとなります。このようにたくさんの方とネットワークが形成されており、フォーマル・インフォーマル資源を活用しながら、子ども食堂を

運営されていることが分かりました。寄付をしてくれた企業さんなどには、子ども達が手書きで一生懸命書いたお手紙を送るなどしてお礼を伝えることで、繋がりを大切にされています。

ここまで聞くとカレーライスをぜひ頂いてみたかったのですが、取材日の夕食はピザでした。このピザは、ピザーラさんからの寄付で、社会貢献活動「未来を創る『子ども・若者支援プロジェクト』」の一環として組み込まれていて、社会福祉協議会を通じて、応募の募集があり、昼間ではなく、夕方から夜にかけて子ども食堂を行っていることが条件だそうです。ピザ（ピザーラさん提供）とバナナ、いちごミルク（九州乳業株式会社さん提供）をいただきました。「今日もカレーが食べたかった」と話していて、私もカレーライスが食べたくなりました。



写真左：社会貢献活動の一環として、ピザーラさんがピザを配達している様子。写真中央：「雨にも負けず」を音読刷る様子（高校生は英訳版）。写真右：寄付してくださった企業さんへお礼状を書く様子。

■「健康でいること」と「子ども達の笑顔を見られること」

安部さんに、活動を継続の秘訣を聞いたところ、毎日のラジオ体操や子ども達の笑顔を見て心身共に健康で過ごすことだそうです。一人で行うのではなく、地域の方々と一緒に外で行い、集まる方達とのコミュニケーションも楽しんでいるそうです。

今回の取材を通して、新たな発見、気づきをたくさん得ることができました。自分から出向いて、体験し考えていくことの大切さも実感しました。何かを始めるきっかけはどこに転がっているか分からない、何かしらの困難を抱えている人は潜在化することもあります。実はすぐ近くでヘルプサインを出しているのかもしれないと感じました。視野を広く持ち、人と人との繋がりを大切に、どんな人の話にも耳を傾けていきたいです。子ども食堂の取材に協力してくださった安部さん含め、スタッフの皆様、子ども達、ボランティアの高校生の皆様のおかげで、有意義な時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

* 鶴崎子ども食堂のスケジュール *

- ～ スタッフの方 集合・準備
- 16:30～ 高校生達 集合
- 17:00～ 子ども達が「こんにちは」と続々集合して、宿題・勉強を各々行う
- 17:30～ 遊び時間（外の駐車場でトランポリンなど）
- 18:00～ 夕食（いただきますの前に、皆で宮沢賢治の「雨にも負けず」を音読）
- 18:30～ 遊び時間
- 19:00～ 高校生帰宅 子ども達は、お迎えの時間まで、スタッフの方とお礼状書きや昔の遊び（将棋崩しなど）
- 20:00～ お迎え 子ども達帰宅 スタッフの方も片付け後、帰宅

参考資料

大分県立大分鶴崎高等学校「鶴崎子ども食堂のボランティアに参加しました！」

<https://kou.oita-ed.jp/oitaturusaki/information/post-541.html>

公益社団法人大分県老人クラブ連合会 令和4年度地域支え合い（友愛）活動研修会

<https://www.oita-kenrouren.jp/2022/11/id-4716/>

フードバンクおおいた（大分県社会福祉協議会）<https://fboita.oitakensyakyu.jp>

（株）フォーシーズ ピザーラ「未来を創る 子ども・若者支援プロジェクト」<https://www.four-seeds.co.jp/corporate>